

がりょうてんせい
こたえ 画竜点睛

基礎 ④

画竜点睛

(中国の故事)

昔、中国の梁りやうという国に、張僧繚ちやうそうりやうという、絵の名人がいました。あるとき、張は、ある寺のかべに、四ひきのりゅうの絵をかくようにたのまれました。

張がかいたりゅうは、うろこの一まい一まいまで見事にかかれ、今にも動き出しそうでした。ところが、どのりゅうにも、ひとみがかかれていませんでした。

人々がふしぎに思ってたずねると、張は答えました。「ひとみをかき入れると、りゅうは、かべからぬけ出して、天へ飛んでいってしまうのです。」

人々は、それを本気にせず、「そんなばかなことがあるものか。早くひとみをかき入れてくれ。」と、しつこくたのみました。

しかたなく、張が、二ひきのりゅうにひとみをかき入れると、たちまち、いわずが光り、かみなりが鳴りひびきました。そして、ひとみを入れた二ひきのりゅうは、かべをつき破り、雲に乗って天へのぼっていきました。かべには、ひとみのない二ひきのりゅうだけが残ったということです。

この話から、物事を完成させるための、最後の大切な仕上げのことを、「画竜点睛がりょうてんせい」というようになりました。「点睛てんせい」とは、ひとみをかき入れることです。

1 張は、寺のかべに、何ひきのりゅうの絵をかきましたか。

四 ひき

2 張が、りゅうにひとみをかかなかったのは、どうしてですか。

ア ひとみをかくと、りゅうが天へ飛んでいってしまうから。
イ 時間がなかったから。

ウ ひとみのかき方を知らなかったから。

3 出来事の順に、□に1・2・3を書きましよう。

3 りゅうが天へのぼる。

1 人々がひとみをかくようにたのむ。

2 張がひとみをかき入れる。

4 「画竜点睛がりょうてんせい」の意味に合うものに、○をつけましよう。

ア 最後の大切な仕上げ

イ 絵を上手にかくこと

ウ りゅうをおそれること